五穀豊穣・異体同心

令和８年度 朝礼（11/2）　校長の話

皆さん、おはようございます。

前回の朝礼は私の都合でお休みとなってしまいましたが、本日は前回お話しする予定だった「五穀豊穣（ごこくほうじょう)」と、今回のテーマである「異体同心（いたいどうしん)」という二つの言葉についてお話しします。

まず、「五穀豊穣」についてです。「五穀」とは、私たちが普段食べているお米や麦、豆などの穀物のことです。そして「豊穣」とは、それらが豊かに実ることを意味します。昔の人々にとって、無事に秋の収穫を迎えられることは、命をつなぐ最大の喜びであり、感謝の祈りそのものでした。

さて、ここで皆さんに一つ質問があります。私たちが毎日食べている「米」という漢字。このたった一文字の中に、ある「数字」が隠されているのを知っていますか？

……正解は、数字の「八十八」です。「米」という漢字を分解すると、上と下に「八」、真ん中に「十」が見えてきますよね。昔から「お米を作るには、八十八もの手間がかかる」と言われています。

種をまき、芽が出たら大切に苗を植え、嵐の日も猛暑の日も休むことなく作物を守り続ける。農家の方々は、一日たりとも気を緩めることなく、愛情を注いで育ててくださっています。

秋の味覚をいただくとき、その一粒一粒に「八十八回の手間と想い」が詰まっていることを思い出してみてください。「いただきます」という言葉の裏にある深い感謝の気持ちが、自然と湧き上がってくるはずです。

さて、二つ目の言葉は「異体同心」です。「体は違っても、心を一つにする」という意味の四字熟語です。

皆さんは先日の合唱祭で、クラスごとに見事な合唱を作り上げましたね。あの感動は、まだ皆さんの心に新しく残っていることでしょう。

実は、合唱の美しいハーモニーは、「みんなが同じ声を出しているから」生まれるのではありません。

ソプラノの高い声、アルトの豊かな声、そして男子の力強い声。それぞれが全く違う「音色」や「個性」を持っているからこそ、それらが重なり合ったときに、一人では絶対に作れない素晴らしいハーモニーが響き渡るのです。

これは、私たちの学校生活や社会の姿にもそっくり当てはまります。

もし世界中の人間が、自分と同じ考えで、同じ性格で、同じ声だったらどうでしょうか。一見、喧嘩は起きないかもしれませんが、それはどこかモノクロで退屈な世界かもしれません。

「異体同心」の本当の素晴らしさは、「みんな違う」という背景があることです。自分と違う誰かを認め、お互いの違いを乗り越えようと努力するとき、私たちは一人では生み出せない大きなパワーを発揮することができます。

私たちには、相手の気持ちを想像する「思いやりの心」があります。「なぜあの人はこう考えるのだろう？」と知ろうとすること、そしてお互いの強みを引き出し合うこと。それこそが、本当の意味で「心を一つにする」ということです。

さて、３年生の皆さん。いよいよ本格的に自分の進路と向き合う時期がやってきました。進路選びとは、「自分の強みや良さという音色を、次はどんなステージで響かせるか」を決める大切な作業です。周りと比べる必要はありません。自分らしさを最大限に活かせる道を選び取ってください。

１年生・２年生の皆さん。日々の学校生活の中で、自分の将来に向けた目標をしっかりと持ち、一歩一歩の歩みを大切に進めていってください。

人は誰もが、世界にたった一つだけの「個性」という楽器を持っています。お互いの音色を尊重し合いながら、この学校でしか作れない最高のハーモニーを、これからもみんなで創り上げていきましょう。

これで、校長先生のお話を終わります。